

「道を教えてください」

(詩篇25・1〜22)

一、主と私

祈りの基本は聖なる神の前に一対一で向き合い、自らの訴えをさらけ出すことです。1節をご覧ください。主よあなたを わがたましいは仰ぎ求めます。と、詩人は主の前に祈っています。もちろん、このことばに表れているわがたましいは、公の礼拝においてはイスラエルの信仰共同体を意味しますが、神への信頼は「神と私たち」という状況だけでは育ちません。個々人の決断、献身が必要です。詩人は神の前に「主よ」「あなたを」と呼びかけ、「私は」と語っています。こつという関係が、罪赦された者の姿です。

ここには、主の霊と一つになっている詩人がいます。2節、3節をご覧ください。わが神 あなたに 私は信頼いたします。どうか私が恥を見ないように 敵が私に勝ち誇らないようにしてください。まことに あなたを待ち望む者が 恥を見ますように。と訴えています。主よ、どうか私が恥を見ないように 敵が私に勝ち誇らないようにしてください。主よ、恥を切り離して読ん

だら、「何というひどいことを言う人間なんだろう」と思う方がいるかも知れないですが、私とはイスラエルであり、敵とは主の敵であり、裏切る者とは神との契約を裏切る者です。

二、道を教えてください

続いて、4節をご覧ください。主よあなたの道を私に知らせ あなたの進む道を私に教えてください。とあります。25篇には「道」ということばが多く現れます。「道」は、一人ひとりにとって、あるいは国家にとって重要で、詩篇1篇にも主のおしえを喜びとし昼も夜も そのおしえを口ずさむ人。その人は 流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結び その葉は枯れず そのなすことはすべて栄える。とあります。ここには、「道」ということばこそ出てきませんが、「道」を意味している詩篇です。あるいは、詩篇119・99のようにして若い人は 自分の道を 清く保つことができるでしょうか。あなたのみことばのとおりに 道を守ることであります。

聖なる神の前に罪の問題が解決している人は、すなわち主の御思いと一つになっている人は、「私は主の道を知りました。神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないことを感謝します」と語り、自己満足をしていません。主よ あなたの

道を私に知らせ あなたの進む道を私に教えてください。と、祈り求めています。そして、5節につながります。あなたの真理に私を導き 教えてください。あなたこそ 私の救いの神 私はあなたを一日中待ち望みます。と。常に心の中で、主に祈り求めている人。これが、神を信じる者の姿です。

三、私の咎をお赦しください

聖なる神と自分との関係にわかまりがなくなり、言い換えるなら罪の問題が解決されると、どのような姿になるのでしょうか。喜びでしょうか。たしかに「神と私との間に何のわだかまりもない」として、喜びがやってまいります。ですが、もう一つの面があります。それは、「二度と主を悲しませたくない。罪を犯したくない」と願うことです。詩篇には、後者の方が多いと思われま

7節をご覧ください。私の若いころの罪や背きを 思い起こさないでください。あなたの恵みによって 私を覚えてください。主よ あなたのいつくしみのゆえに。とあります。詩人は、今や神との関係においてわだかまるものがなく、何の隠しごともありません。そつという詩人にとって、過去のことが思い浮かんだようです。詩人は「私は罪人です」と言いたかったのであります。私の若いころの罪」と語

りましたが、ここに書かれている「罪」は「的外れ」の意味です。続いて、私の若いころの罪や背きをの「背き」は「神への反逆」を意味することばです。自分が神の光に照らされていなかったときは、何とも思わなかったことでも、光に照らされると、居ても立っても居られない、ないしは神の前に顔向けができない気持ちになります。

では、思い起こさないでください。は、こつという意味でしょうか。神のいつくしみにすがっている姿と受け止めたら良いでしょうか。詩篇103篇に12東が西から遠く離れているように主は 私たちの背きの罪を私たちから遠く離される。という、ダビデの詩篇があります。

25篇に戻りますが、11節をご覧ください。主よ あなたの御名のゆえに私の咎をお赦しください。それは大きいのです。とあります。ここに、罪を表す三つ目のことばが出てまいります。私の咎をお赦しくださいの「咎」は「曲げる」が元の意味だそつでありまして、「悪の行為」を意味します。

このように、神の前に罪の問題が解決された人は、「私は罪人です」と知っている人です。神を知る、キリストを知るとは、罪を知ることです。神と自分、神と自分たちの関係は、神の側からの恵みといつくしみが現されなければ成り立たないと知る者、知る者たちです。